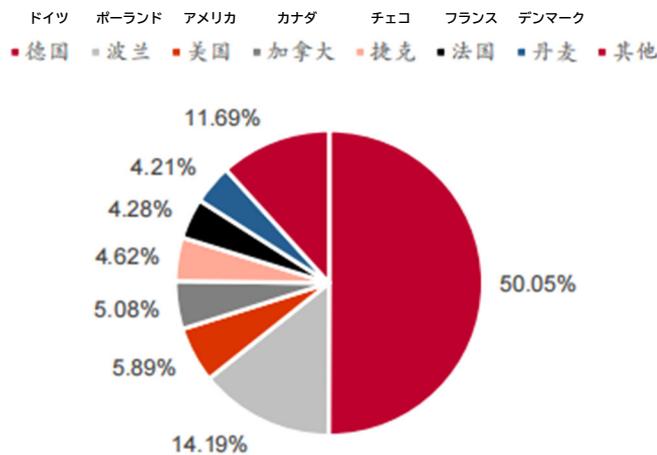


## 中国における針葉樹の輸入（対ヨーロッパ）

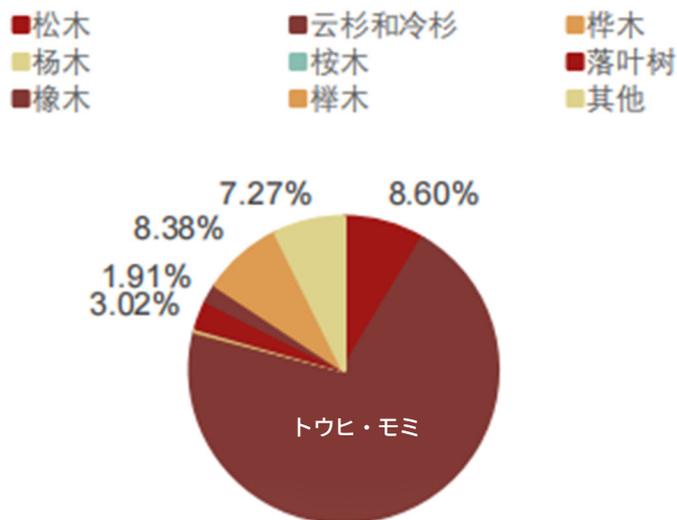
トウヒ（スプルース）とモミは、中国の針葉樹材輸入の2位である。中国のトウヒ・モミの主な輸入元は、ヨーロッパで、最大はドイツ、次いでポーランドである。

ドイツの森林面積は国土面積の約32.7%を占め、森林被覆率が最も高いのはラインラント・プファルツ州、森林面積最大はバイエルン州である。主な樹種はトウヒ、モミ、ブナ、オーク、カラマツ、ナラなどで、そのうちトウヒが32%、ヨーロッパマツ、カラマツが26%を占める。しかし、商品材としては、トウヒ・モミがドイツの経済樹種の主流である。

中国におけるトウヒ輸入元



ドイツが輸出する原木の樹種

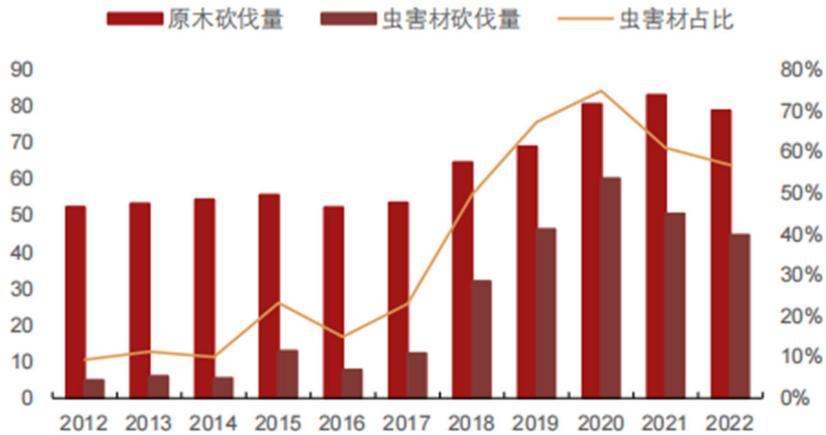


公众号 · 创元研究院

资料来源：德国统计局、创元研究

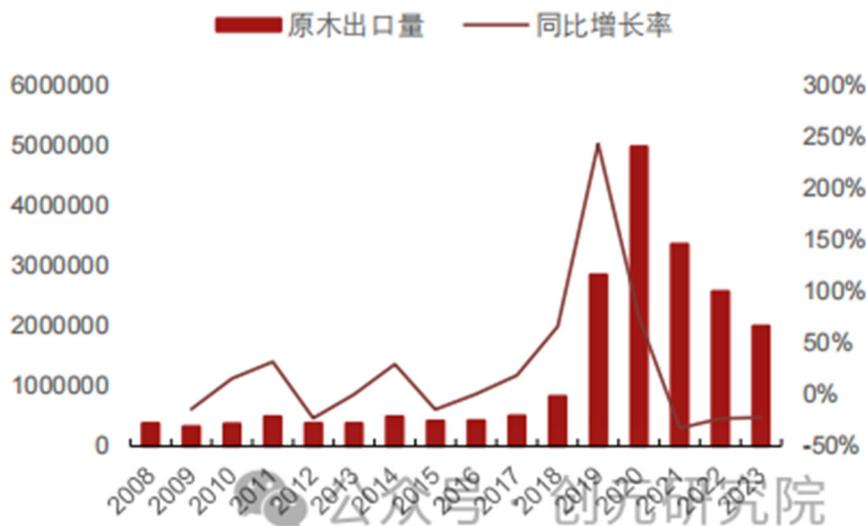
トウヒ・モミはかつて不測の被害も多かった。2018年頃からヨーロッパ各国では乾燥と暑さのため、さまざまな規模の虫害に見舞われた。キクイムシは伝染性が非常に強いいため、大量の被害材が前倒しでの伐採を余儀なくされた。2020年のピーク時には6,000万立米を超える被害材が伐採され、その年ドイツで伐採された原木全体の75%を占めるに至った。中国はこの被害材を引き取った主要国のひとつであった。

ドイツの害虫被害材伐採量とその割合（単位：100万立米）



资料来源：德国统计局、创元研究

ドイツからの中国向け原木輸出量（単位：立米）

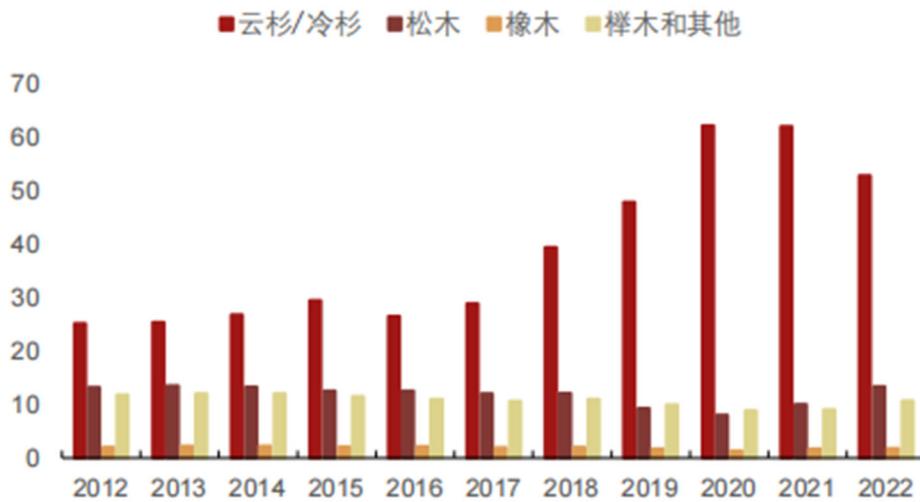


资料来源：德国统计局、创元研究

2022年頃から、ヨーロッパの気候が徐々に回復するにつれ、害虫被害材の伐採は著しく減少し、世界資源研究所（WRI）によると、被害は年間10～20%の割合で減少していくと予想されている。しかし、害虫蔓延の最悪期が終わったとはいえ、ヨーロッパのトウヒ・モミ産業はまだ完全には回復していない。

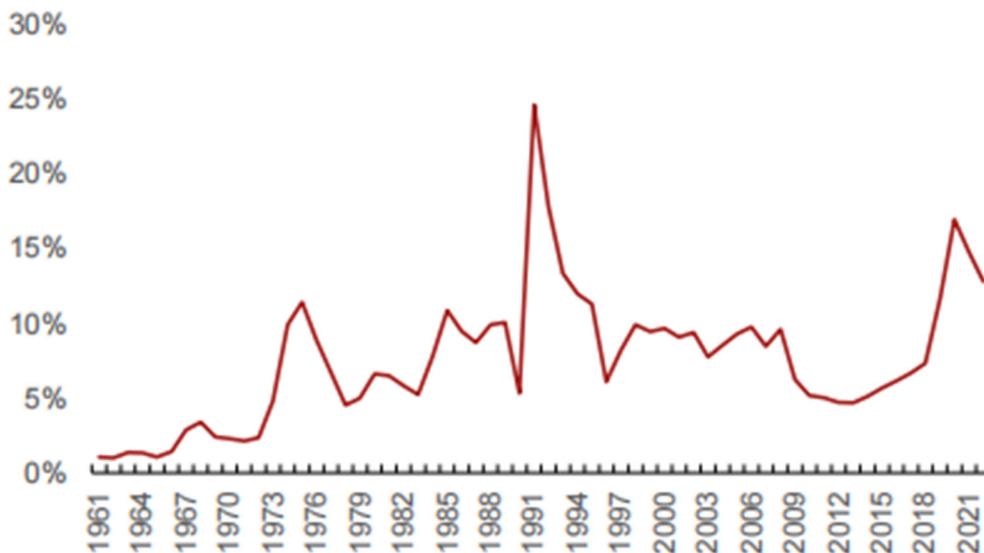
イギリスでは2024年10月にトウヒの植林制限が発表された。ドイツのハルツ地方では、干ばつと害虫の蔓延によりトウヒの約90%が枯死した。地球温暖化が進むにつれ、高温で乾燥した気候はキクイムシの繁殖に好条件となり、ヨーロッパにおける害虫問題はおそらく短期から中期的に緩和されるだけで、完全に解決されることはないであろう。すでにトウヒに代わる他の経済樹種に目を向けている国もある。

ドイツにおける樹種ごとの伐採状況（単位：100万立米）



资料来源：德国统计局、创元研究

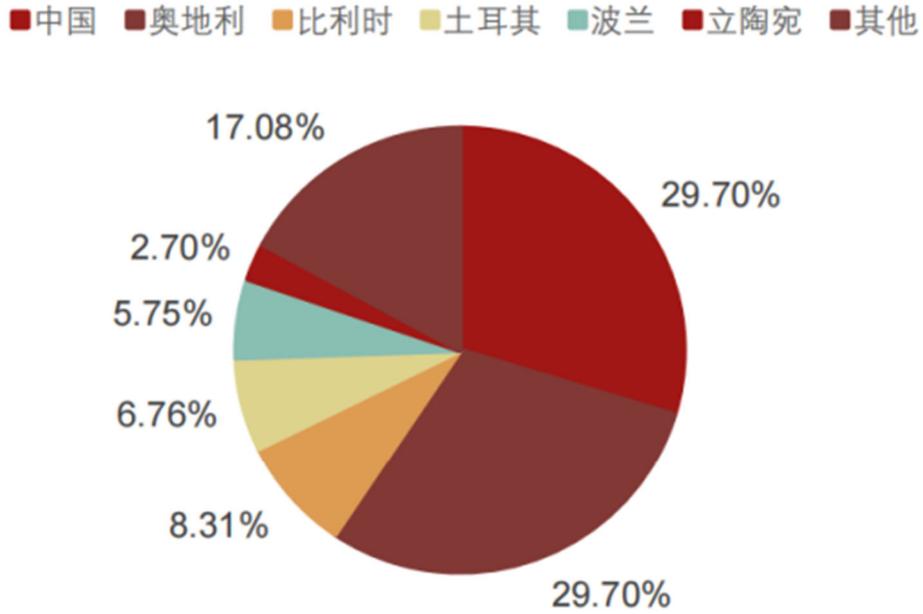
ドイツの原木輸出割合



资料来源：德国统计局、创元研究

ドイツの原木は主に国内で消費される。輸出の割合は低く、例年 10%前後である。しかし、2018 年のキクイムシの大発生後に輸出が急増し、その後キクイムシ被害が収まると、再び輸出が減少し始めた。主な輸出先はオーストリアと中国である。

ドイツ原木の輸出先



资料来源：德国统计局、创元研究

キクイムシ被害



资料来源：公开资料、创元研究

ラジアータパインに比べ、ヨーロッパトウヒの品質保証期間は短く、3ヶ月ほどしかない。2023年末に紅海の地域的緊張が高まって以来、紅海航路は大きな打撃を受けており、多くの船舶が紅海を迂回して喜望峰航路を選択した。その結果、アジアから喜望峰を回ってヨーロッパまでの航海日数が約10日増え、申告、通関、検疫、入庫などの必要な手続きを合わせると、ドイツのトウヒが中国に着くには最大で1ヶ月半以上にもなる。そうすると中国に到着したトウヒは、素早く処理、加工を行わないと、品質保証期間が過ぎて劣化してしまう。

また、中国とヨーロッパの貿易業者との間では、不良品を良品と偽る、納品数量や樹種が契約と一致しないなど、貿易上の紛争も多い。したがって、ニュージーランドと比べ、ヨーロッパの原木輸出業者の信用度は、中国の業者が考慮する重要要素の一つである。トウヒ原木は主にコンテナ輸送が中心であり、運賃の変動は中国輸入コンテナ運賃指数（CICFI）を参照することができる。

### 中国－ヨーロッパ 船便ルート



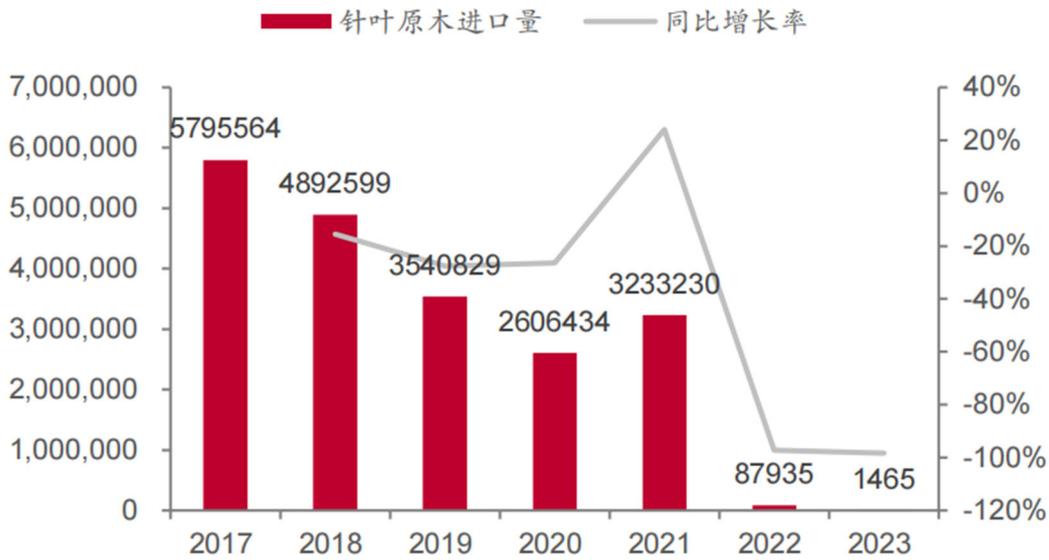
资料来源：公开资料、创元研究

害虫の発生は、トウヒ原木の中国最大の輸入元であるドイツの地位には影響しなかったが、他の国々では新たな懸念すべき変化が起きている。1つ目はロシアで、早くも2007年には、原木の輸出を制限し、自国木材加工産業の発展を促すため、原木輸出税を引き上げた。

プーチン大統領は2020年9月、原木輸出に関する新たな規制を求めた。一部の樹種の原木の輸出税は60%から80%に引き上げられ、2022年1月1日から、ロシアは未加工の針葉樹材の輸出を全面的に禁止した。この措置により、ロシア国内市場には600万立米の針葉樹材が残ることになった。したがって、2022年以降、ロシアの針葉樹原木はほぼ中国市場からも撤退した。

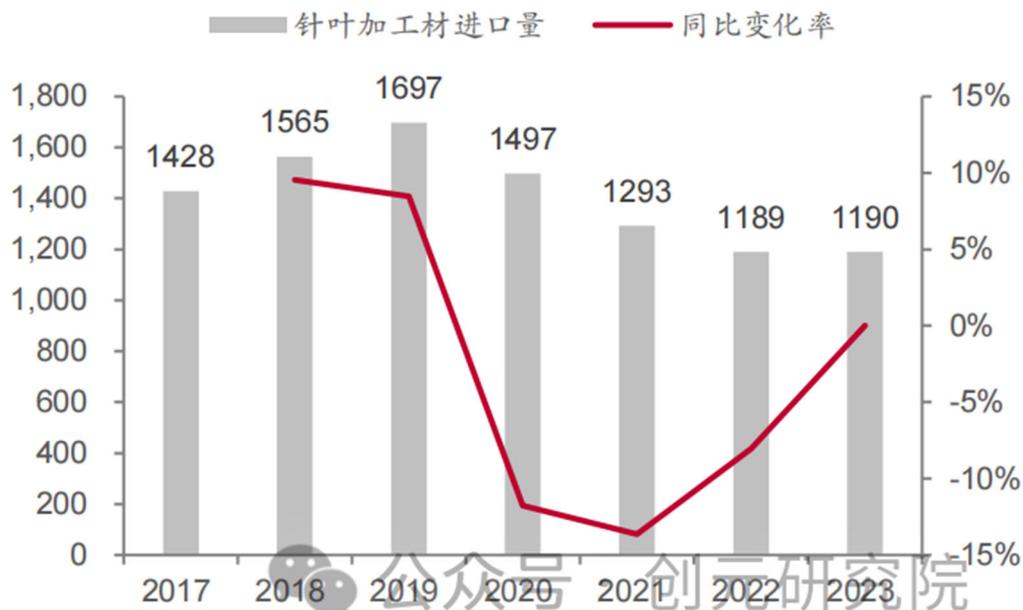
中国は2023年に数千立米のみロシアから輸入したが、2024年は現在まで輸入はゼロとなっている。ロシアの原木輸出政策のスパンから見ると、輸出禁止は長期的に維持されるであろう。これは、ロシアとウクライナの紛争が原因ではない。今後、未加工の針葉樹原木輸出が再開されるかどうかは未知数だが、ロシアの政策傾向を考えると、今後輸出が再開される可能性は低い。

## ロシアからの針葉樹原木輸入量（単位：立米）



资料来源：海关总署、创元研究

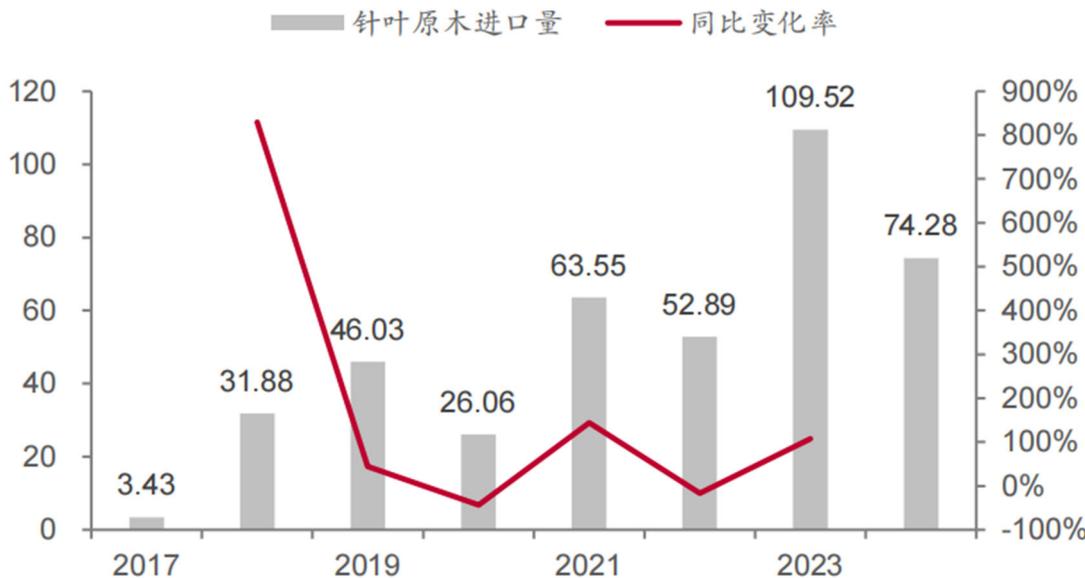
## ロシアからの針葉樹加工材輸入量（単位：万立米）



资料来源：海关总署、创元研究

もうひとつ、状況が大きく変化した国はポーランドで、ポーランドは過去20年間、森林伐採が増え続け、年間2,500万立米から4,000万立米にまで増加した。2018年以降、ポーランドから中国への原木輸出量が増加し始め、2023年は中国のポーランドからの原木輸入総量が2022年比で100%以上増加し、ブラジルを抜いて中国の原木輸入元トップ10に仲間入りした。ポーランドから中国に輸出される主な針葉樹原木の樹種はトウヒ・モミとヨーロッパアカマツである。

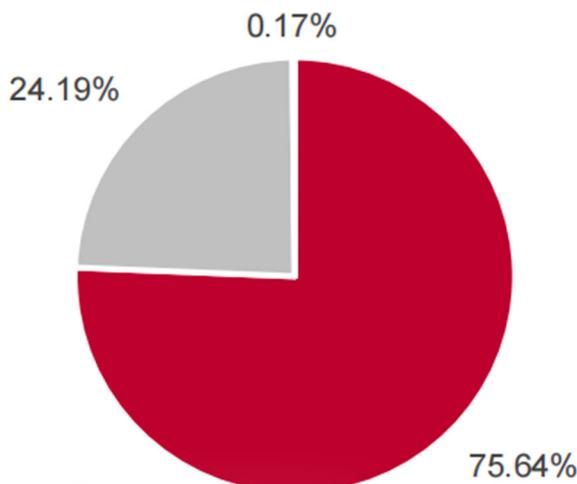
### ポーランドからの針葉樹原木輸入量（単位：万立米）



资料来源：海关总署、创元研究

### ポーランドから輸入の針葉樹原木樹種

■ 云杉和冷杉 ■ 红松和樟子松 ■ 其他



公众号 · 创元研究院

资料来源：海关总署、创元研究

ポーランドの原木輸出の将来は不確実な要素が多い。EU側では、2018年と2022年の両年、欧州司法裁判所がポーランドの林業がEU法に違反しているという判決を下した。ポーランド国内では、環境保護団体や地球気候変動からのプレッシャーがあり、2024年初頭に森林伐採量を20%削減すると宣言した。